

第 55 回無脊椎動物病理学会報告

東京農工大学 小野寺 拓

2023年7月30日から8月3日の5日間にわたり、アメリカ合衆国メリーランド州のカレッジパークにあるメリーランド大学にて、第55回無脊椎動物病理学会が行われました。また、学会開催前の7月28日には指導教員が共同研究をしているアメリカ合衆国農務省国立農業研究センター外来昆虫生物制御・行動学研究室を訪問し見学させていただきました。開催地がアメリカという遠方の地ではありましたが報農会の国際学会渡航旅費のご援助により、学会に参加し研究室を訪問、見学することができました。多様な専門知識を持った世界の研究者の方々の講演を聴き対面で交流をすることができ、大変貴重な経験をすることができました。本渡航で学んだこと、体験したことを報告させていただきます。

本学会は無脊椎動物病理学に関する科学的知識の向上や普及、応用の促進を目的としており、細菌、糸状菌、微胞子虫、線虫、ウイルス、有用無脊椎動物、微生物制御といった様々な分野に分かれて口頭発表およびポスター発表が行われました。学会初日の夕方は会場に全ての学会参加者が集まり、懇親会が行われました。学会の初日にこのような交流の場が設けられていたことは非常に新鮮であり、多様な背景を方々と英語で交流し有意義な時間を過ごすことができました。

学会初日の午後から最終日までは、分野ごとの口頭発表やポスター発表が行われ、私もポスター発表で“Expression of Parasitoid Killing Factors using *Escherichia coli* and baculovirus expression system”と題して、昆虫ボックスウイルスが産生する寄生蜂に対して致死活性を有するタンパク質を、その活性調査のために様々なタンパク質発現方法によって発現方法を検討する、という内容の研究発表を行いました。国際学会への参加は今回が初めてであり、英語で自身の研究を分かりやすく伝えることは非常に難しく感じました。しかし多くの方にポスターを見に来ていただき、発表やディスカッションを繰り返していくうちに、少しずつ説明の仕方を改善でき様々な方々に研究テーマの面白さを理解していただくことができました。英語での発表は不慣れであったため、自身が考えていること全てを説明することが難しかったのですが、多くの方が熱心に内容を理解しようとしてくださり、有意義なディスカッションを行うことができました。発表を通して、聴いている方々の反応を確認しながら丁寧に説明することの重要性を再認識することができました。また、発表中には研究に関する沢山のアドバイスもいただき、研究における課題を解決する方法を学ぶことができました。実際に、この時学んだことによって自身の研究に進展を生み出すことができました。多様な分野の研究者が集うという本学会の特徴が、このようなことを可能にしていると実感しました。

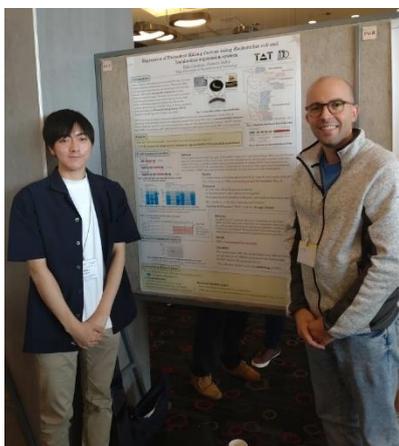
本学会では、研究者同士のより深い交流を図るために多くのイベントが行われており、3日目の早朝にはマラソン、午後には遠足とバーベキューが開催されました。マラソンは午前6時という早い時間から開始でしたが、沢山の方々が参加していました。様々な研究者の方々と共に自然豊かな風景の中を走り、より交流を深めることができました。午後の遠足ではワシントンD.C.のナショナル・モールに行きいくつかの観光名所を巡り、アメリカ合衆国の歴史を学びました。移動中は、研究者の方々と出身地や家族のことなど研究以外のことについてゆっくり話すことができました。このように世界の研究者の方々と深い交流を持てることは、国際学会の醍醐味であると感じました。

学会開催前には、アメリカ合衆国農務省国立農業研究センター外来昆虫生物制御・行動学研究室を訪問、見学しました。当研究センターでは、非常に多様な害虫の防除に関して基礎から応用まで幅広い研究を行っていました。最も印象深かったことは、研究室や実験圃場などの土地の広さです。研究センター内は、見渡す限り圃場が広がっており様々な作物が栽培されていました。このような環境が、作物の大規模栽培における幅広い害虫に対する防除方法の研究開発を可能にしていることを実感しました。

本渡航では、世界の研究者の方々と交流するという大変貴重な経験をさせていただきました。幅広い研究分野や多様な背景を持つ方々とコミュニケーションをとることによって、自身の研究を多様な視点から見つめ直すことができ、世界の研究者や学生の方々の研究に対する熱意を実感することができました。今回学んだことは、今後様々な研究に携わっていく上で非常に大切なことであり、このことを活かし多様な方々との交流を大事にしていきたいと考えております。このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。



アメリカ合衆国農務省国立農業研究センター
研究棟の1つ



ポスター前の筆者



懇親会にて